

# ON AIR

NO. 110

放送大学通信 オン・エア

発行月 2013年6月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11  
043-276-5111 (総合受付)



## CONTENTS

学位記授与式	1
放送大学30周年について	6
研究室だより	7
コース横断座談会	8
第5回エッセイコンテスト	12
2013年度開設改訂科目紹介	14
就任・退任のごあいさつ	18
インフォメーション	20

## 学位記授与式が行われました

2013年3月23日、2012年度学位記授与式が、NHKホールにおいて挙行されました。当日は学部卒業生と大学院修了生と同伴者をあわせて、大勢の方々が出席しました。卒業証書・学位記授与の後、学長式辞や下村文部科学大臣などの来賓の祝辞があり、卒業生・修了生総代による感動的な謝辞の後、全専攻または全コース卒業の名誉学生の学長表彰が行われ、学歌斉唱で閉式となりました。

### 学長式辞

学長 岡部 洋一

本日、めでたく卒業を迎えられた卒業生の皆さん、また修士論文をまとめられ、修士課程を修了された皆さん、ご卒業おめでとうございます。本学の教職員を代表して、心からお喜び申し上げます。また、皆さんをずっと支えてこられたご家族、友人の方々も多数お見えかと存じます。どうか、皆さん全員で卒業の喜びを分かち合っていたいだきたいと思います。

また、本日は、文部科学大臣を始め、多数の来賓の方々をお迎えし、かくも盛大な学位記授与式を挙行できました。誠にこの上ない喜びであります。

放送大学は1983年つまりちょうど30年前の4月1日より生涯学習を担う通信制大学として設置されました。皆さんは、この節目の時に卒業されるわけです。現在の学力試験を課さない公開大学としての性格、また高等学校の修了要件を満していなくても、15歳を越えてさえいれば選科、科目履修生として本学に属することができ、最終的には学士取得まで可能であるといった生涯学習としての基本的制度は、当初より取り入れられました。



その後、1985年より関東広域圏で放送を開始し、1990年から徐々に全国化に向けた準備を進め、1998年にはCSによる放送開始と共に全都道府県への学習センターの設置を完了し、全国化が実現しました。本年はその意味でも、この全国化からちょうど15年という、節目の年となっております。一方、2011年10月から開始したBSデジタル放送のほか、2007年度よりネット配信が始まり、それを皮切りにWebによる通信指導問題の提出の実現など、各種インターネットを利用した学習も急速に進みつつあり、益々利用しやすい大学になってきていることは皆さんもよくご存知のことと思います。



岡部 洋一 放送大学長



下村 博文 文部科学大臣



南 俊行 総務省大臣官房審議官



総代の4名と二高副学長

さて、お祝いに当たって、いくつかのことを申し上げたいと思います。多くの大学の学長さんの祝辞では毎年、異なることを述べられるようですが、本当にお伝えしたいことは、あまり変わらないのではないかと考えております。

まず第一に申し上げたいことは、めでたくゴールまで到達された「自分を褒めてやっていただきたい」と思います。前述のように、放送大学では各都道府県に学習センターを設置し、そこで教員から直接対面で面接授業などの指導を受けたり、期末の単位認定試験を受けられるようになっています。さらに、そこでは教職員の相談を受けることもできますし、学生さん同士の交流や助け合いの場にもなっています。しかし、こうした分散したキャンパスがあってもなお、遠隔教育大学の宿命として、多くの学生さんは、大部分の時間を孤独と戦いながら学習を続けてこられたことと思います。さらに、一般の大学のように学部は最短で4年、大学院は2年で卒業できますが、本学ではかなりの学生さんが、仕事や家庭を持っていることもあり、こうした難しい勉学環境から10年、あるいは再入学して20年とかけて卒業にたどり着かれた方も多いと思います。この精神力や持久力には、我々教員も頭を下げざるを得ないと感じております。さらに、本学に設置された人文、社会、自然科学などといった5から6コースすべてを終えられた方もたくさんいらっしゃいます。こうした方は学内ではグランドスラマーと尊敬を込めて呼んでおります。後ほど学生表彰という形で顕彰させていただきますが、今回は31-85歳の方々が42名もいらっしゃいます。

第二に申し上げたいことは、皆さんにはぜひ「本学の卒業生であることに、誇りを持っていただきたい」ということです。本学は、学力試験を課さない誰にでも開かれた稀有な大学でもあります。だから周りもレベルが低いと思っていますし、ここに居ら

れる皆さんの中にもそう思われている方が多いかと思えます。それに加え、通信制大学だからと頭ごなしに信じておられる方も多いと思います。本当にそうでしょうか。

本学ではおよそ80%の単位は放送授業によって取得しないとイケないのですが、その試験は極めて厳格になされており、情状酌量はありません。つまり、入口は誰にでも開かれているが出口は厳しい大学なのです。さらに、放送授業を受け持たれている専任教員や客員教員は、著名人が多いことは言うまでもなく、常に教育の質を意識されています。そもそも、放送されているということから、専門家の目にも常にさらされているので、よい緊張を持って制作しております。また、各学習センターで面接授業を受け持たれている先生方も、それぞれの地域の重鎮の方が多く、同じく高い教育の質を保っております。つまり、立派な先生の質の高い講義を受け、かつ試験が厳格である大学を卒業されているのです。

第三に申し上げたいことは「本学で取得した知識や手法を、いろいろな局面で生かしていただきたい」ということです。勉学が直接的に生きる場合もあるでしょうが、ほとんどがよくわからないところで生きてきます。例えば筋力トレーニングが、ほかの運動の成果になって現われてくるようなものでも、そうした効果を認識することが大事だと思います。それが「学ぶ姿勢の維持」につながります。

個人的な話ですが、昨年夏に長年の希望であったローマとベネチアを訪問することができました。それをきっかけに塩野七生さんの著で十数冊もある「ローマ人の物語」を読みました。ローマが何千年以上も続いた理由が描かれており、今の混迷にある日本の将来を示す知見を得ることができ、大変、啓示的であると思えました。その継続の理由の一つが「すべての道はローマに通ず」と称賛された道、あるいは水道といったインフラにあることを知りまし

た。しかも、造るだけでなく、メンテナンスにも膨大な力を注いでいるのです。本日卒業される皆さんがこれまで得たのは、例えば新しい道を得たことになると思います。しかし、それをメンテナンスし、さらにより新しい道を築いていくことが、これからの皆さんに必要なことかと思えます。それが、正に

## 謝辞

教養学部卒業生代表 生活と福祉専攻 白旗 寛之

この度は、私共のために、このような盛大且つ厳粛な式典を挙げて頂き、誠にありがとうございます。今般、学位記を賜うることが出来ますのも、先生方をはじめとして、多くの関係者の方々の御尽力があつたことと存じ、深く感謝いたします。

また、御来賓の方々には、お忙しいなか、この式典に御臨席賜ったうえ、お言葉をいただきましたこと、卒業生を代表いたしまして、厚く御礼申し上げます。

私は秋田学習センターに所属して、学習を続けてまいりました。今年の秋田の冬は、平成18年豪雪を上回る積雪量を記録し、北東北の厳しい冬を、ことさらに深くこの身に刻む冬でありました。しかし、ようやく冬が過ぎ、春を迎える今、晴れて学位記を賜うことができ、大きな喜びと深い感謝の思い、そして放送大学の卒業生として、これからも学び続けていこうとする信念を、ゆるぎないものとして感じております。

放送大学での学びのかたちには、放送授業と面接授業、さらに卒業研究があります。私事で恐縮ではございますが、卒業研究を履修するまでは、放送授業や印刷教材による学習が中心になっていました。この学び方には孤独な印象があり、私も入学当初はそのように感じておりました。しかし、放送大学の学生として日々学習を重ねるうち、暮夜ひとりで勉強しているときも、日本全国北から南まで、共に学ぶ沢山の放送大学の仲間たちも、同じように頑張っているということ、強く意識するようになっていきました。大学の学歌に「いつでも、どこでも、見えない友と、共に生き、共にまなぶ」という一節がありますが、「見えない友」であるがゆえに、その存在を強く感じ、そして力づけられていました。また、それと同時に、学びたいという意志を持つ人々が、日本全国どこでも大学の講義を受けることが出来る、充実した学習環境の整う放送大学を、誇らしく思いました。

卒業研究では、男性家族介護者による、高齢者介護をめぐる問題をテーマとして、宮本みち子先生のゼミに所属させていただき、ご指導を賜りました。今度は共に学ぶ学友と、直

私の申し上げた「学ぶ姿勢の維持」と強い相似性を持っているのではないかと思います。

本学に在籍したことにより、力強く生きるすべ、したたかに生きるすべを得たのだ、それを力に他人に優しい、包容力のある人間になっていただきたいと念じて、改めておめでとうを申し上げ式辞とします。

接会って研究を進めるという機会でした。年齢も、社会的背景も、居住する地域も異なる学友と、宮本先生の御指導を仰ぎ、アシスタントの道祖土様にお世話していただきながらのゼミには、不思議な大きな力があつました。



仕事を持ちながら教科の学習を続け、研究を進めるということは、私にとって容易なことではなく、「この研究は結論に達するのだろうか」と、弱気になったことも度々でしたが、ゼミに出席すると、それまでの弱気は一気に吹き飛び、帰路の電車や新幹線のなかでは研究に没頭し、気が付くとすでに夜中にさしかかった秋田駅に到着しているといった具合でした。そのようにして続けた研究でしたが、冬が迫る頃のある朝、報告書を完成させることができたときの何とも言えない喜びは、支えてくれた多くの人々に対する感謝の気持ちに彩られたものでした。本当に貴重な出会いと経験をさせていただいたと思えます。

現在、私は地元秋田の大学病院で、看護師として勤務しておりますが、以前は千葉県の化学工場で、プラントの仕事をしていました。しかし、28歳の夏、秋田に住む父の病気により、退職して秋田に帰りました。その後3年間はアルバイトを転々としながら、母と共に父の療養の援助をしていました。今思えば、先の見通しが全くたないことがつらい日々でした。そして31歳を過ぎて、働きながら定時制の准看護師養成所に学び、それに続いて看護学校の2年課程に進み、35歳になった時、新人看護師として仕事をはじめました。年齢的にも、ジェンダーの面でも、自分自身のアイデンティティーに揺らぎを感じたことは数多くありましたが、勇気をだしてそこに自分を投げ出したとき、いつでも自分の気が付かないところで、間違いなく多くの人々に支えられていました。4月からは、10年間の臨床を離れ、看護学校の教員として教壇に立ちます。おそらく険しい道になるでしょう。

日々の暮らしは、むしろ厳しく苦しいことの方が多く、そのつらさはいつでも真実として、この身に刻み込まれます。しかし、

そのような暮らしのなかにあっても、否、そのような暮らしのなかにあるからこそ、学び続け、この身に刻み込まれる真実のなかに、きっと潜んでいるはずの真理を探し続けること、そのことに、学び続けていくことの大きな意義があると考えております。その歩みが、たとえ拙いものであったとしても、真理に向かって一歩、喜びに花が咲く日にも一歩、悲しみに暮れる日にも一歩、学び続けていればきっとそれは見つかる。くやしさに耐えて一歩、一生懸命の一日に一歩、学び続け、勉強し続けてさえいれば、たどり着くことが出来るはずのその場所へ、

## 謝辞

大学院修了生代表  
臨床心理学プログラム 柿澤 史子

本日は、私たち卒業生・修了生のために、このような盛大な式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、ただ今、岡部学長先生はじめ、ご来賓の皆様から温かいお言葉を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

私の放送大学との出会いは、放送大学大学院が開講した2002年のことです。教育相談の仕事をしていた私は、当時お腹に子どもがおりましたので、研修の機会は非常に限られていました。そんなとき、臨床心理学の第一線の先生方が、通信制の大学院にプログラムを立ち上げると知り、まさに、小躍りをして喜んだのを思い出します。

その後は、修士科目生・選科生として、5年ほど学びました。その間、色々なことがありました。ある学期の単位認定試験はつわりのさなか。30分足らずで論文らしきものを書き上げ、無事に家に着いてホッとしたこと。また体調不良から退職せざるを得なかった時、自宅で安静にしながら、放送を聞いていたこと。放送大学は、毎週同じ時間に、最新の学びと社会との接点を、私のもとに運び続けてくれました。のちに仕事に戻る機会を得たとき私は「放送大学で勉強してきました」と胸を張りました。その時の充実した気持ちを、忘れることはできません。

修士全科生として再入学したのは2011年、東日本大震災の直後でした。私のふるさととは岩手県釜石市です。慣れ親しんだ風景が無残に削り取られた映像を見て、心に穴が開いたような状態で、5月、大学本部でのオリエンテーションとスクーリングに臨みました。到着した幕張の町は、液状化の被害が痛々しいままでした。プログラムの同期にも被災地の方がいましたし、また、大学の機関誌「オン・エア」にも、被災地の学友が、学びを諦めずに進もうとする姿がありました。「いつか、臨床心理士となって、ふるさとを支援したい。」その思いが、目の前の学習だけに集中する力を私に与えてくれました。

自分を信じ、多くの人々への感謝の気持ちを忘れず、何度傷ついても必ず立ち上がるわが祖国日本、その礎になるという気概を持ち続け、放送大学の卒業生であることに胸を張って歩み続けていきます。そして「開かれた大学 放送大学」に、ひとりでも多くの人が、つどい、学ぶことを願ってやみません。

最後に、御臨席の皆様方の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。そして、いつでも私を励まし続けてくれた両親に、感謝の思いをささげ、卒業生を代表しての謝辞とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。

私の研究は、5歳児健診などにおける、発達障害への支援がテーマでした。データ収集のため、インタビューを受けてくれる方を苦勞して探し、やっと承諾を取り付けました。そこまで、ただ必死でしたが、いざインタビュー直前になると、「初対面なのに大切なお話を下さるのだろうか」「ご気分を害されたら、間に入った方にまで迷惑がかかるのではないだろうか」などと、不安にかられました。そんな時、指導教員である小林真理子先生は、おっしゃいました。「それぞれの方に、一度きりのカウンセリングをするつもりで臨みなさい。」この言葉で私は、心理の世界に足を踏み入れた時の初心と、クライアントの方の目線に立った研究にしたい、という目的を、思い出すことができました。

実際のインタビューでは、お母さま方が率直な思いを語ってくださったことが印象的でした。今後の私の仕事は、その方々の思いを反芻していく、長い旅になるような気がしています。

放送大学大学院・臨床心理学プログラム特有の授業に、180時間に及ぶフェイス・トゥ・フェイスのスクーリングがあります。この濃密な時間を共有した同期の皆様との体験は、私にとって生涯の財産となることを確信しています。

私は、プログラムの先生方の臨床に対する姿勢や生き方そのものから、多くのことを学びました。それは心の中に苗木を頂いたような感覚です。苗木に水をやり続け、時には自然の力に折れそうになっても、その息吹を絶やすことのないよう、これからも歩みを続けたいと思います。

最後に、今日までご指導下さいました、学長先生はじめ諸先生方、職員の皆様、私たちの学びにご配慮下さった職場の皆様、そして私たちを理解し、いつも温かく見守ってくれた家族に、心より感謝申し上げますと共に、放送大学の益々のご発展と、ご臨席の皆様のご健勝をお祈りいたしまして、修了生を代表しての謝辞とさせていただきます。



# 卒業・修了祝賀パーティーが行われました



卒業・修了祝賀パーティーが学位記授与式の後、ホテルニューオータニ「芙蓉の間」で開催されました。多くの卒業生・修了生や同伴のご家族の方々が出席され、同窓会の方々の運営で大変盛り上がりしました。

司会の佐治アナウンサーの開会宣言の後、岡部学長、齊藤同窓会連合会長の開会の辞、白井理事長の乾杯の挨拶や、退任される専任教員や学習センター

所長のご紹介などが行われました。

卒業生・修了生全員で合唱した「仰げば尊し」。目を潤ませながら聞き入っていた先生方がとても印象的で、リラックスした中にも、感動する祝賀パーティーでした。



## 卒業生・修了生にインタビュー



← 守 文一さん  
(社会と産業・宮城学習センター)

友人に誘われて一緒に入学し2人で卒業を目指していました。途中で友人が病気になる、一緒に卒業できなかったのは残念ですが、無事に卒業することができて嬉しいです。



↑ 先生と共に喜びあうガウン姿の修了生たち

(吉川さん) 卒業まで13年かかりました。少しずつ単位を取っていたので、長かったなと思います。家族の支えがあってやっと卒業できたのでとても嬉しいです。

(堅田さん) じんわりと嬉しさが込みあげてくる感じです。たくさん苦勞なされた学友の話聞いて自分のことのように嬉しいです。

(桜木さん) 卒業しようと決めたのが遅く、また年齢のせいか覚えても忘れてしまうことがありしんどかったです。でもなんとか卒業できたので嬉しいです。



↑ 高知学習センターの卒業生・修了生  
左から吉川 元子さん(心理と教育)、  
堅田 智英さん(自然環境科学プログラム)、  
桜木 伸子さん(発達と教育)



← 95歳で24年度最高齢の卒業生  
加藤 栄さん  
(社会と産業・北海道学習センター)



卒業しようと決めたのが遅かったのですが、この年齢になるとなかなかしんどかったです。でも、こうして卒業できたので嬉しいです。

→ 福島学習センターのみなさん



# 放送大学創立30周年 について



放送大学は、今年開学30周年を迎えました。30年前の1983年4月に放送大学が設置され、1985年より学生の受け入れを開始しました。この間、放送大学で学んだ学生の累積数は130万人を超え、卒業生は7万人を超えました。

今年は多くの30周年記念事業を予定しています。詳しくはホームページでお知らせします。

## ●放送大学の主な沿革●

- 1981年7月 放送大学学園設立
- 1983年4月 放送大学設置
- 1985年4月 学生受入開始
- 1998年1月 CSデジタル放送による全国放送開始  
10月 全国の学習センターで学生受入開始
- 2003年10月 特別な学校法人への移行
- 2011年10月 BSデジタル放送開始
- 2013年4月 放送大学創立30周年

## 放送大学30周年宣言

今から30年前、放送大学は、テレビ、ラジオを通じて放送による授業を行う、新しい大学として開学しました。年齢・職業・居住地を問わず、学ぶ意欲を持つ全ての方々に開かれた新しい大学。放送大学は、30年の歳月を経て、日本全国で9万人もの学生が学ぶ学舎へと大きく成長しました。これからも放送大学は、生涯学習と遠隔高等教育のパイオニアとして、様々なメディアを活用し、学びから世界を広げようとする全ての方々に、より一層開かれた大学となることを宣言します。

## 放送大学30周年記念キャッチフレーズが決定しました 「学ぶ。世界が変わる。」

放送大学30周年キャッチフレーズは、学生および教職員から作品を募りました。合計556点もの応募があり、その中から教養学部学生 佐田富美子さんの作品に決定しました。2013年3月に、キャッチフレーズ採用の表彰式が行われ、学長より賞状および副賞（図書カード1万円分）の授与が行われました。佐田さんに、キャッチフレーズに込めた思いを伺いました。



### 受賞の言葉



佐田 富美子さん(教養学部全科履修生 人間と文化コース/東京足立学習センター所属)

私自身、放送大学で学んだこと、とりわけ、卒業研究の履修において奈良先生と出会ったことは、新たな人生を拓くものとなりました。孤独に学ぶもよし。でも、ホットにつながることもできる。年齢も背景も違う多くの方が、それぞれの人生の「時」を抱えて学びを志す。そのさまざまな思いとニーズに対応できる「多様な」教育内容と教育・支援体制のある放送大学は、それぞれの人の「時」を見守り、勇気と力へと誘う営みをますます磨き、直接には学生さんを、またそれを通して社会に、いっそう貢献していくことができると考えます。



## 学習活動としての研究

私のゼミでは認知科学研究のテーマとして、「簡易シミュレータを使った飛行機の操縦訓練のカリキュラム」、「楽しく楽曲を演奏することを可能にする楽譜の新しい表記法」、「ペットの遺棄はなぜ生じるのか」、「護身術を実際に使おうとするときのストレス」、「数の理解」、「理科教育における実験の役割」等々、広く多彩なテーマが取り上げられています。一見、互いのテーマの間には関係がないようですが、どれも、その根底には学習の研究があり、その点で多くの共通点を持っています。

学習という複雑な対象に立ち向かうには、自分の目でその対象を見つめる時間を取ることはとても大きいものです。所詮人は枠組みに依拠してものを見ます。すでに持っている枠組みが素朴なものであるにせよ、それでも、そこに依拠して、自分の目で対象を見つめる時間を最大限に取ることで、学べることは少なくありません。ですから、自分の枠組みで対象をよく見る経験をたくさん積み、同じ研究室の仲間と自分たちの使っている枠組みが

どういふものか、話し合うことによって、自分自身の枠組みを少しずつでもより良いものにして行くことが出来るものです。そうやって、より



研究室にて

よい枠組みを手に入れば、対象はよりよく見えてきて、普通は簡単には身につけることの出来難い新しい枠組みを、研究活動を通して身に付けることが出来るものです。

人が経験を基に新しい枠組みを作り上げていく過程をよく見ると、人は思った以上に優れた学習者のようです。しかし、なかなかそう見えません。それは学習の背後にある無意識に起こる多様な平行過程からなる認知過程を観察する手段を生得的に持ち合わせていないからでしょう。その手段に変わる概念的な道具はどんなものか、それをゼミの皆さんとともに追求していくことも私自身の研究活動であり、真性な学習活動の一環です。

## 多様なテーマと活気ある議論

修士論文と卒業研究の指導は、ゼミ形式の集団指導を中心に行っています。修士の院生に卒研の学部生が加わり、平均して月1回のペースで開催しています。ゼミでは、各自のテーマに関する事、研究の進捗状況などが報告され、それに対して私も含む参加者全員がコメントを出し、興味や関心を引いた点を取り上げて議論を深めてゆきます。通学制の若い学生だけの大学とは異なり、参加者の年齢も、職業を含む人生経験も、ライフコースも多様にして多彩ですから、社会学・都市社会学を専門とする私にとっても、たいへん刺激的で面白く、学ぶことの多い議論が展開されます。今後も、この放送大学の学生が持つ長所を大事にしながら、先行研究や方法論の検討が苦手といった短所をカバーしてゆく指導を続けたいと思います。

### ●学生の声●

ゼミは基本的に毎月、東京文京学習センターで開催され、学部生2名、院生12名が指導を受けています。ゼ



ゼミ生と先生

ミは各自が論文テーマや作成状況などを報告し、質問や意見を受け、最後に先生がその後の論文作成に関して指導することで進められます。九州など遠くから時間を割いて参加するゼミ生もおり、ゼミは毎回活発な議論で盛り上がります。教室でのゼミが終わった夕方からも、学習センター近くの居酒屋「和来路(わらじ)」で和来路会と称して議論が続きます。ゼミ生は年齢が20歳代から60歳代と幅広く、仕事や経験も異なり、取組むテーマも多様です。それが互いの好奇心を刺激し、よい影響を与えあっているようです。ゼミは人生経験を豊かにしてくれる貴重な場でもあります。(小林吉雄)



# 人と人との結びつき —日中韓の違いは何をもたらすか

吉田 光男 副学長(東洋史学)  
西村 成雄 教授(国際政治学・中国政治)  
コーディネーター 高木 保興 教授(開発経済学)



(左から)高木 保興教授、西村 成雄教授、吉田 光男副学長

前号でとりあげた「ソーシャル・キャピタルとは何か」を受けて、さらに議論を深める「コース横断座談会」を企画しました。今回は、昨今何かと議論されている日中韓問題に関連して「人と人との結びつき—日中韓の違いは何をもたらすか」をお届けします。

※本文中は敬称略とさせていただきます。

## 信頼関係は母系中心。 ボランティアなネットワーク社会が 広がる韓国

**高木** 前号のON AIRで坂井先生(社会経済学・経済学/教授)は、「ソーシャル・キャピタル(社会関係資本、以下SC)」があらゆる領域に及ぶことを示されました。そこで、本日は、SCの中でも一番わかりやすい「人と人との結びつき」について話を進めたいと思います。韓国出身の呉善花は身内への信頼は厚いが他人に対する信頼関係は極端に薄い、というようなことを書いています。吉田先生はどう思われますか。

**吉田** 身内—つまり血縁ですね。韓国社会では公的には父方の血縁を指しますが、信頼関係という点では母方です。「一番親しみを感じる親戚は？」という質問に「母親の姉妹」と多くの人が答えています。韓国人は、母方の実家で生まれ幼少を過ごすことが多いので、一緒に過ごし、自分の面倒をみてくれた母の姉妹を大人になっても信頼できると感じているのです。そ

うではない場合、たまたま遠い親戚とわかって親しみが沸いたとしても、それは信頼関係とは別ものです。ですから血縁と言えども、信頼関係はむやみと広がるものではないと言えるでしょう。韓国社会

ではこの血縁のほかに、地縁、学縁—学校や職場を通じた縁、という3つの縁があり、状況に応じてそのネットワークを使い分けています。ですから局面局面において「人と人との結びつき」や信頼関係の濃淡というものは変わってきます。一概に「他人に対する信頼関係は極端に薄い」などとは言えません。

**高木** 文化人類学者ベネディクト・アンダーソンは、日本に置き換えて言うところ「まだ会わない日本人は大勢いる。でも日本人とわかると親しみが沸く。それが想像の共同体だ」と述べています。一度も会わないが外国人よりは親しみが沸く、と。この「会ったことのない人」への親しみは、血縁の遠い近いとは関係なく、常識を共有している要素が強いように思えます。

**吉田** 血縁の遠い近い以前に、韓国では血縁を基盤とする信頼関係そのものが大きく揺らいでいるように思います。韓国では、一人の人間がネットワークを作るときに、自己を中心にして相手との距離がどの位あるかを基準にします。例えば、お父さんの親しい人が自分にとって親しいかどうかは、自己の体験とその人との関係によって左右されます。そのため、韓国には日本のように世襲的な二世議員はほとんどいません。選挙の勝敗は、その人自身を中心にネットワークが作れるか否かにかかっています。朴<sup>パク・クネ</sup>槿恵大統領が誕生したのも、父・朴<sup>パク・チョンヒ</sup>正熙大統領の後光は確かにありましたが、自分を中心としたネットワークができていたからです。企業も同じですね。創業者が亡くなれば、世襲した子



吉田 光男 副学長

ども同士で骨肉の争いが起きます。一見、血縁で結ばれていて強く結び付いているようでも、メリットがなくなれば血縁以外の者と結びつこうとします。このように血縁を基盤とする信頼関係が、急速に薄らいでいるのが今の韓国です。

**高木** 日本と似たようなものと言えますね。

**吉田** 韓国ではその「自分を中心としたネットワーク」が互いにボランティアな関係で結ばれています。NPOやNGOなりがとても盛んで、SNS等を使ってたちまち広がり、結びつきます。以前、韓国の村を調査して「共同性はあるが共同体ではない」と思いました。日本にある、内向きの地縁的な相互扶助とか規制といったものが弱く、誰が出て行こうが入って来ようが自由である。ただ、中にいる間は共通する利害でボランティアに結びつこうとします。例えば、水管理を巡って利害調整の必要が出た場合、水路ごとに「契」（組合）ができます。水路が隣村に通じていけば、村を超えて「契」を作ります。牛を飼う話になれば、そのための「契」ができます。このように一人の人間が、いくつもの「契」という関係を持っているのは、今日の韓国のネットワーク社会に通じるもので、その広がり、結びつきの勢いというものは日本にはないものです。

### 「血縁」的身内以外の信頼関係は 疎で一時的、ただし市民社会の 成熟過程にある中国

**高木** 中国に話を転じて。アメリカのジャーナリスト、ピーター・ヘスラーの著書『疾走中国』では、自社のよいところを誇張する社長、技術を高く売り込む技術長、採用してもらおうとする労働者が、それぞれ自己の都合の良い条件を交えて交渉しています。まるで騙し合い。そこに信頼関係はないようですが、西村先生、いかがですか。

**西村** 辛亥革命を起こした中華民国の国父・孫文は、当時の中国社会の様相を「バラバラの砂」と表現しました。吉田先生から、韓国の村落共同体の凝集力には疎なる側面がある、という話がありましたが、戦前期満鉄が華北を調査したときにも同じ議論がありました。日本の村落は濃厚な人間関係で結ばれ信頼という概念を持ち込めるが、中国の人々は自主的・自立的に動いている。それが利害・目的が発生して初めて結び

つく、と。逆に言うと、相手の能力への期待はあるが、結びつくまでの相手の意向への配慮が小さい、と言えます。ですから、外からは“バラバラ”であたかも“騙し合い”に見える。坂井先生はSCについて、「互酬性の規範」をキーワードとされましたが、互酬性、つまり相互に期待し合う社会関係の濃淡・強弱はそれぞれの社会集団によって違う訳で、信頼関係のあり方も多様といえるかもしれません。その点では、多民族で広域な大陸性社会との間には自ずと違いがあります。

**高木** 中国は血縁の結びつきが強いように思います。

**西村** たしかに中国では、南方の村落共同体は一村同姓などもあり血縁集団に近いものでした。そういう歴史を背景に、血縁の結びつきは強いといえるでしょう。同族意識が強く、対外的にも華僑と強く結びついています。



西村成雄教授

中国社会には、この血縁の次に地縁、社会的分業体系の中に自分を位置づける業縁がありますが、地縁、業縁の中で築かれる信頼関係は、血縁に比べかなり疎なるもの、一時的なものです。ただ現在は、「バラバラの砂」と外から見えても、内部では社会的亀裂を超えてつながろうとするネットワークの条件が整いつつあります。四川大地震後、中国社会ではNPO、NGOによる相互扶助的なボランティアの社会的結合が増大しました。ボランティアとしてやろうという層が形成され始めています。私は、これを中国における新たな経済的社会的基盤を形成しつつある市民社会が、成熟過程にあるのではないかと考えています。

### 政府に対する信頼性が低い韓国 段階的に危機の分散化を図る中国

**高木** それでは政府に対する信頼性について。韓国では元大統領の裁判沙汰というのが多い。韓国人は政府を信頼できないと考えているのでしょうか。

**吉田** 日本から見ると、韓国は国民とか国家とかについていつも声高で、ナショナリズムの強い国、と見えがちですが、韓国人はその点で日本の方が強い国だと見えています。何かあったときにそれまで隠れていたナショナリズムが出て来てぱっとまとまると感じています。韓国の政治経済のエリートたちがどこまで本気で

国家とか民族とかを考えているかは疑問です。富裕層は財産を外国に逃避し、海外移住も盛んです。政治家も同じで、大統領選は「彼の息子は兵役拒否のために米国籍をとった」とかの誹謗中傷合戦になりがちです。かつての政敵が大統領になると、大統領の時には権力で抑えていた“埃”が叩くほどに出てきます。そういうリーダー達を見て、基本的には信頼できないと考えています。韓国では常に「民族」と言っていないと忘れてしまう危険があるかもしれません。



**高木** 政府に対する信頼が弱い、というのは李氏朝鮮時代の両班<sup>ヤンパン</sup>支配の影響が残っているのでしょうか。

**吉田** 私は、朝鮮時代から脱して近代化に進む過程での残滓が影響していると思っています。

日本は、江戸時代まで歴史伝統文化の共通性が培われ、明治時代に近代国家へと生まれ変わりました。天皇というものの持つ権威を政策の中にうまく取り込み、日本は一つだとする基盤ができたのです。国としてのサイズの問題もあります。中国、インドに比べると桁違いに小さい。情報が行き届き、人々は共通の意識を持ちやすかった。それで近代国家へと進むことができました。ところが、韓国は近代化へ一歩踏み出すところで日本に支配されてしまい、第二次大戦後になって、ようやく自前の近代国家を造ろうとしました。今の政治風土を見ると、まだその途上ではないかと思っています。

**高木** 中国はどうか。憲法の上に共産党があって、裁判の内容は党上層部によって変わります。重慶市の党書記で2012年はじめに政治的に失脚した薄熙来<sup>ハフキライ</sup>の奥さんの例にあるように。

**西村** 興味深い統計があります。中国では現在いろいろな社会的抗争が多発していますが、ある研究者によれば07～11年に起きた1,117件の抗争を分析したところ、対政府部門が83%、対非政府部門が17%で、政府部門に対するものが圧倒的でした。もちろん、それを指導する党組織が対応していますが、その政府部門は、中央以下、省級、県級の三レベルに区分されていますが、それぞれに対する信任の度合いを調べたところ、中央85%、省76%と段々下って県政府レベル

では67%でした。つまり、政策の矛盾の出やすい基層社会に近いほど信頼度が低くなっている。そこで、ある抗争が県レベルに対するものであったら、省政府が県の担当者に責任をとらせる、省レベルの危機には中央が省に責任をとらせる、といった手法をとっています。これを危機の三段階とよんだりしますが、そのため矛先はなかなか中央レベルにまで届きません。

**高木** 中央に向かないように段階的な危機の分散化が図られている、と。政府が信頼できないと脱税が頻繁に起こるとか、資産を海外に移したりとか、中国では結構起きていますが、韓国ではどうでしょう。

**吉田** かなり出てますね。1997年の通貨危機・金融危機を経て、韓国は新自由主義へと舵を大きく切りました。その結果、特定の財閥企業に富が集中してしまいました。例えばサムソン財閥はGDPの20%を占めるまでになっています。中小企業はバタバタ倒れ、リストラや就職難は若い世代にも及び、ストレスフルで生きにくい社会となりました。唯一強固であった血縁も揺らぎ始めました。同じ1997年に憲法裁判所によって「同姓同本婚禁止」に憲法不合法という判決が出ました。同姓同本者（姓と先祖ゆかりの土地である本貫が同じ者）を自分の父系血縁者とみなし、親等の遠近を問わず婚姻を禁止していたものが、実情に即して結婚してよいということになりました。また、05年には戸主制が全面廃止されて個人登録制に変わり、事情によっては姓を変えてもよい、ということになりました。男女平等が進み、それまでの社会規範は大きく変質してきたように思います。65歳以上の自殺率がここ10年で日本の数倍に上昇しました。親の面倒は子や孫がみる、といった血縁を基盤としたかつての規範が失われつつある現象だと見ています。

## グローバリゼーションが弱めた「人と人との結びつき」

**高木** サムソンの名前が出ました。そこでグローバリゼーションと「人と人との結びつき」についてお伺いします。アメリカの経済学者ジョゼフ・スティグリッツは、グローバリゼーションの下では「1%の上位が99%の下位から富を吸い上げている」とし、政府が適切な政策を打たなければアメリカの政治制度を支えていた共同体意識も危機に瀕し、やがて政府への信頼は

失墜すると指摘しました。この共同体意識は政府に対する信頼醸成には欠かせないと思いますが、中国の場合はどうでしょう。

**西村** 中国の共同体意識は、かつての毛沢東時代には、革命の成功に担保されその政治的正統性を支えました。彼の死後、鄧小平はその正統性を市場経済への移行に求め、その改革開放の成功を受けて01年にはWTOに加盟できました。その結果、中国のグローバリゼーションはいっきに進み、格差拡大などの矛盾を生みだしました。第6代国家主席の胡錦濤は「和諧（調和）の時代」を掲げ貧富の差などの是正に努めましたが、成功したとは言えません。つまり、「革命の成功」の時代から「経済発展」の時代へ、そして次の時代は、という段階で今の中国は揺らいでいます。この揺らぎが軍事政策や外交政策に表れています。では、国家に対する信頼までもが揺らいでいるかと言えば、県レベル、地方レベルでは社会的抗争として蓄積されてはいても、中央レベルにまでには及んでいません。

**高木** 関税撤廃を前提とするFTAを李明博大統領は推進しました。結果、韓国では弱い産業や企業が追い込まれたと理解していますが…。

**吉田** TPPを巡る日本の農業団体の動きと同様、韓国でも農業団体によるFTAに対する猛反対がありました。そこで李明博大統領は仕掛けを施します。産業界に、利益を上げなければ「農業を保護しなさい」と。ただ、多くの国民が「国は農業を捨てた」と見えています。

**高木** 安倍首相はTPPに前向きです。格差はますます拡大することは目に見えています。そうなるステイグリッツが指摘しているような共同体意識の弱体化現象は日本にも起こってくると考えられるのでしょうか。

**吉田** 日本人とは何ぞやと一義的に規定しにくいですね。日本人であること—それは自明の理であり、公共という集団の中に自分を位置づけることが安定した社会を作るという暗黙の了解に日本は覆われています。ですから、それほど共同体意識が薄れるとは思っていません。韓国は近代化の途上で日本によって楔を打ち込まれました。そのため、その前後の共同体意識というものをどう結びつけるか、という課題を抱えたままです。中国の場合は、“革命”という装置が働きましたが韓国にはそれがありません。その不安定感が反日

というところに出ている感じがします。近代化百数十年の道のりに刻み込まれた傷こそが自分達の存在の根拠だ、とすることで国民的な凝集力、つまり共同体意識を呼び起こす必要があったのでしょうか。竹島問題も、日本が歪めた歴史を是正するということを出発点としています。歴史を持つ韓国と日本とは、共同体意識について同じ土俵でなかなか語れるものではありません。韓国では、日本に言及する際に「失われた20年」とか、前の民主党政権に対して「政府あって政策なし」とか表現しますが、一方で、そうは言っても相変わらず日本の経済規模は世界第3位で少しも揺らいでいないではないか、と考えています。確かに反日感情はくすぶっていますが、日本に対する信頼感、それは理屈抜きにあると感じています。

**西村** 中国の場合、海外の華僑集団は家族（宗族）レベルで本国とのネットワークができています。その意味ではすでにグローバルです。そのため、中国は大陸でまとまっているという見方だけでは理解できない側面を持っています。また、チベット自治区、新疆ウイグル自治区、内モンゴル自治区などエスニックグループ（少数民族）を政治的につなぎとめなければならない。その思惑から、かつての漢民族主義ではない天下世界のナショナリズムとして、中華民族主義的なナショナリズムを人工的に作る必要があった。その意味で日本と中国とでは、自ずと国家の凝集力は異ならざるを得ず、共同体意識についてももっと多元的な考察と新たな解釈コードが必要になると思います。その一つの、しかし極めて重要な解釈コードが、中国における社会的関係資本がどのように機能しているか、その再発見にあると理解しています。

**高木** 時間が来てしまいました。これを契機に学生の皆さんが「人と人との結びつき」について、そしてSCについて関心を持っていただけたら幸いです。吉田先生、西村先生、ありがとうございました。



## 第5回

テーマ「放送大学での学びから得たこと」

# 放送大学 学生エッセイ コンテスト

エッセイコンテスト実行委員長・同選考委員  
心理と教育 教授

齋藤 高雅

第5回放送大学学生エッセイコンテスト優秀作品選考の経緯と作品について報告いたします。

学生エッセイコンテストは、放送大学の学生がどのような環境で、どのような思いを持って学んでいるか、そして学生の声を伝える場として、また教職員も学生の実像を知りたいとの思いから、2008年より始まり、以後、毎年行われています。

テーマは、第1回「学びと私の生活」(応募者数65名)、2回「学びと出会い」(52名)、3回「放送大学から広がる世界」(84名)、4回「今、放送大学学生の私にできること」(37名)と続き、今回は「放送大学での学びから得たこと」に決まりました。放送大学ではさまざまな世代の方が、それぞれの目的を持って学んでいます。教養を高めるため、資格を目指しておられる方、また、困難な状況におかれていても勉学に対する意欲を持続されている方など、全国各地でそれぞれの思いを持ちながらに勉学に励んでいます。「学びを通じて得たこと」を知ることは、同じ学ぶ者として大いに参考になるものと思います。

今回の応募者数は47名(男性:26名、女性:21名)です。年齢は、20歳代から80歳代まで、40歳代が最も多い(11名)のですが、30歳代から70歳代までほぼ均等(7名~9名)に応募されています。学部生は40名(83.3%、うち全科生35名)、大学院生が8名(16.7%、うち全科生3名)でした(1名の方は2重学籍)。



エッセイコンテスト実行委員会・同選考委員会の審議を経て、最優秀賞1名、優秀賞3名、佳作8名、計12名の方が受賞されました。

受賞者	作品名	学習センター
最優秀賞		
河村泰伯	学歴コンプレックスとの決別	熊本
優秀賞		
野口なつき	知識を受け継がせるために	静岡
奥田孝道	放送大学での学びから得たこと	岐阜
片野尚子	大人にも訊いてよ。大きくなったら何になる?	東京文京
佳作		
尾仲敏郎	放送大学での学びから得たこと	姫路サテライト
平野泰蔵	放送大学での学びから得たこと、伝えたいこと	北九州サテライト
荻原弘幸	「学び」から学ぶこと	旭川サテライト
江川きぬ	夕映えの中で	東京足立
稲垣安代	私にとっての生涯学習と社会参加	埼玉
西村由美子	アラウンド50。でも女子大生	熊本
菅敦子	放送大学で学んだ生きがい	埼玉
石川由美子	10年後の到達点	広島

※各賞毎の氏名は50音順です。※学習センターは応募時のものです。

### 講評

#### 最優秀賞 「学歴コンプレックスとの決別」

熊本学習センター/河村 泰伯さん

様々な事情や社会情勢の中で勉学の機会に恵まれず、職場で要請された受験資格がなかったことが学歴コンプレックスとなり、定年後、70歳近くになり、放送大学に入学し、生涯学習を始めた、いわば放送大学の使命、その原点を感じさせるエッセイです。

#### 優秀賞 「知識を受け継がせるために」

静岡学習センター/野口 なつきさん

若い時の辛く受動的に行っていた勉強から、現在、楽しく能動的に勉強するようになり、放送大学では知識を受け継ぐために勉強しているという。新しい知識で娘さんの驚きの笑顔を作ることが出来る喜びを綴っています。学ぶことの意義を考えさせられるエッセイです。

#### 優秀賞 「放送大学での学びから得たこと」

岐阜学習センター/奥田 孝道さん

定年後の生活への軟着陸をいかにすべきかとの方針を決め兼ねていた時、放送大学の存在を知り、好奇心と自己啓発の意欲を満たしてくれる生涯学習の場を得て、学んだ知識と今までの経験を基に社会参画・社会貢献ができる喜びを綴っておられます。

#### 優秀賞 「大人にも訊いてよ。大きくなったら何になる?」

東京文京学習センター/片野 尚子さん

子どもたちに最先端の医学を、そして研究することの素晴らしさを伝えたい思いはあるが、伝える技術も理論も持ち合わせていないということで、教育学を基礎から学ぶため放送大学に編入された。日々の多忙な生活の中での学ぶ過程と自らの夢をユーモアたっぷりに綴られています。

入選した作品は、放送大学ホームページで読むことができます。  
[http://www.ouj.ac.jp/hp/o\\_itiran/essay/20130304.html](http://www.ouj.ac.jp/hp/o_itiran/essay/20130304.html)

2013年3月、エッセイコンテストの受賞者の表彰式が、学長室にて行われました。

最優秀賞受賞の河村さんはご都合により欠席されましたが、3名の受賞者の方が出席され、学長から賞状および副賞が贈られました。また同日に、P6でご紹介した創立30周年記念キャッチフレーズ採用の表彰式も行われ、学長や齋藤実行委員長ら関係者とともに懇談をし、エッセイコンテスト入賞の喜びを語りあいました。



第5回

放送大学  
学生エッセイ  
コンテスト

最優秀賞受賞作品

## 学歴コンプレックスとの決別

教養学部 社会と産業コース 熊本学習センター 河村 泰伯



「かわむらくん、衛生管理者の試験を受けてくれ」。当時、職場が必要としていた国家資格をとれ、との上司命令である。だが、受験資格が高校卒以上で、中学卒の私にはその資格がなかった。この古傷が、私の学歴コンプレックスの始まりである。

時は無為に流れて40年。勤めも終え70歳近くになったころ、放送大学のパンフレットを目にした。学歴コンプレックスの裏返しで、まだ学歴に対する羨望のようなものが残っており、受講を決意するに、そう迷いはなかった。意地と見栄と気負いの、ただ学歴欲しさからのスタートであった。この不純ともいえる受講動機で、学習内容を理解できるはずもない。すぐに行き詰まり、藁をもつかむ思いで熊本学習センターを訪れた。

そこには老若男女、学びに集中・持続する受講生の姿があり、張りつめた空気が漂っていた。職員の方からは、学習を進めるうえでのアドバイスと励ましの言葉をいただいた。以来、学習センターを利用することになるが、そこは刺激を受け、意欲をかき立て、さらには、学習の濃度を濃くし、自らを高める「場」となった。また、孤独な学習環境からの解放と学びへの姿勢を軌道修正してくれた場所でもある。妻の「若いころ、そのくらい頑張っていればね」との皮肉とも激励ともとれる意味深な言葉を背に受け、車で片道一時間の熊本学習センターへ通いつづけている。

プロ野球界で選手・監督として活躍された野村克也さんの監督時代の実践に、「弱者の兵法」がある。他人に劣る弱者でも、工夫次第で強者になることも可能というのだ。これに倣い、学習効果の上乗せをもくろんだこともある。記憶

までの時間を制限する「プレッシャ勉強法」。学習を思いついたらすぐに始める「瞬間集中法」。その他、連想記憶術、カード記憶術、早朝勉強法など試みたが、応用力が足りなかったのか、効果は今一つだった。また、酒を飲みほろ酔い気分でのテキスト読みも試みた。これが意外や、その内容がつつぎと頭みに刻み込まれてゆくのである。が、翌朝になると記憶していたはずの内容は雲散霧消と化していた。学習に限っては、弱者でも奇策は通じないと神の戒めだったのか。迷い、試して、しくじりながらの試行錯誤の一コマである。

私の欠点は、一つのことを始めるとそれに固執し、周りが見えない視野狭窄症に陥ることである。学びを続けるなかで、少しばかり気持のゆとりも出てきた。苦手意識から、今まで見向きもしなかった分野にも少し目が向くようになってきた。その一つに「博物館概論」の受講がある。まだ観賞力はないが、これを機に博物館や美術館にも足を伸ばしている。また、公開講座等で工学系統の講義も拝聴するようになった。著名作家の美術品・工芸品を直に観て、その道の権威者である先生の講義を直に聴き、学びの領域の広がりを実感している。71歳のオマエがそんなことまで手を伸ばし、無理をしているのではないか、との問には、こう答えることにしている。「オレには伸びしろがある。まだ、現役の大学生だから」と。(以下略)

全文は放送大学ホームページに掲載しています。  
[http://www.ouj.ac.jp/hp/o\\_itiran/essay/20130304.html](http://www.ouj.ac.jp/hp/o_itiran/essay/20130304.html)

## 市民のための健康情報学入門('13)

放送大学准教授 (生活と福祉) 戸ヶ里 泰典 聖路加看護大学教授 (放送大学客員教授) 中山 和弘



戸ヶ里泰典 准教授



中山和弘 教授

昨今健康に関する多種多様な玉石混交の情報がインターネットをはじめメディア上で飛び交っています。過去には健康や病気に関する知識は医療専門家が持っているもので、一般の市民は理解できないもの、知らないものとされてきました。しかし近年では市民生活を送るうえで、たくさんの情報から本当に必要なモノを自分で選び出さねばなりません。また、病院ではこれまではすべて医療者にお任せしていれば良かったのですが、近年では説明を受けたいという患者や家族に治療を受ける意思決定を迫られる場面も増えています。

こうした健康や医療にまつわる情報を首尾よく収集し理

解し使用する能力は「ヘルスリテラシー」と呼ばれ、欧米諸国では保健政策の柱の一つとなっています。このような保健医療の消費者の視点に立った、新しい健康情報学は「消費者健康情報学」と呼ばれています。本授業はこのヘルスリテラシーを高めることを目的とした市民や患者を中心とした健康情報学入門になっています。また、常に患者に寄り添った立場で仕事をしている看護・保健系の専門職の方々にとっても重要な基礎知識であることは言うまでもありません。多くの方々の受講を心よりお待ちしております。

## 疾病の回復を促進する薬('13)

東北大学大学院教授 (放送大学客員教授) 福永 浩司 昭和薬科大学教授 (放送大学客員教授) 渡邊 泰男



福永浩司 教授



渡邊泰男 教授

薬はヒトの身体にとって異物ですが、疾病からの回復には薬の力が必要です。看護の現場では、薬の正しい服用(服薬コンプライアンス)、副作用(有害作用)をチェックすることが重要です。しかし、患者さんの症状が病気に起因するものか、薬の副作用によるものかを判断することは大変難しいと思われれます。患者さん及びチーム医療スタッフとのコミュニケーションが副作用を発見する第一歩です。

本講義では薬の作用点、主作用と副作用、薬の最も

効果的かつ安全

な投与方法について学んでいきます。さらに、老人や小児では薬の吸収や排泄機能が低下していますので、作用の強い循環器作用薬や抗菌薬(抗生物質)が使われる場合は、効果的な投与時期と薬の動態(ファーマコダイナミクス)の知識が必要です。まずは授業に参加して、薬の作用するしぐみに興味を持ってください。薬物治療は日進月歩の時代です。最新の医療情報を自ら積極的に収集して、看護技術のスキルを磨いてください。

## デジタル情報と符号の理論('13)

放送大学教授 (情報) 加藤 浩



加藤浩 教授

現代の高度情報化社会を支えているコンピュータやネットワークは、全てデジタル技術の発展によってもたらされたものです。デジタル技術は、情報を全て符号に変換することが特徴です。本科目では、そのデジタル技術の本質である符号の理論を扱います。確率に基づいて情報を数量的に取り扱う情報理論を基本に、情報のサイズを圧縮したり、情報を誤りなく伝えたり、マルチメディア、つまり、メールなどの文字情報、電話や音楽などの音声情報、写真やファックスなどの画

像情報、ビデオなどの動画情報を符号化する方法、さらに情報を暗号化する方法などについて学びます。情報理論は数学的な理論ですから、どうしても高校程度の数学は必要になります。しかし、どなたでも受講していただけるように、必要に応じて説明を補いながら進めていきますし、高度な数学理論を要するものには深くは踏み込みませんので、ぜひ履修して、高度情報化社会を支えるデジタル技術のからくりを覗いてみてください。

## 初歩のスペイン語('13)

東京大学大学院准教授 竹村 文彦 慶應義塾大学教授 坂田 幸子  
(放送大学客員准教授) (放送大学客員教授)



竹村文彦  
准教授



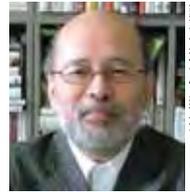
坂田幸子  
教授

この科目は、やさしいスペイン語の文章が理解できて、簡単な日常のやり取りなら交わせるレベルまで初学者を導くことを目標としています。まず、重要なポイントに的を絞って文法の解説をし、つづいて練習問題を解いたり、会話文を読んだりしながら文法知識の定着・応用を図ります。この会話文には、実際の場面でそのまま使える表現が数多く盛り込まれています。手紙やはがきの文章も学びます。また、スペイン語圏の多彩な文化の一端を紹介する目的で「今日の歌」

のコーナーを設け、コーヒー・ブレイクもかねて毎回選りすぐりの一曲を聴いていただきます。私たちのパートナーを務めるのは、スペイン人の分担協力講師アルトゥーロ・バロン＝ロベス先生で、明瞭な発音で例文を読むだけでなく、私たちと短いおしゃべりもします。スペイン語は全世界で約4億人の使用人口を誇り、発音が平易で日本人には取り組みやすい言語です。ぜひチャレンジしてください。

## 新しい住宅の世界('13)

東京大学名誉教授 難波 和彦  
(放送大学客員教授)



難波和彦  
教授

3.11東日本大震災は、これまでの住まいのあり方に対する考え方を大きく変えようとしています。震災後の仮設住宅や復興住宅についても考えながら、これからの住宅のあり方を、サステナブル(持続的な)デザインの視点から、総合的に再検討することを目標とした番組です。住宅をつくる技術や生産組織は複雑多岐であり、住人の家族構成やライフスタイルも多種多様になっています。現代の住宅が辿ってきた歴史、建築家が果たしてきた役割、現代の住宅における家族や生活様式の変化、戸建住宅の集合化とコミュニティの関係、住

宅を秩序づける寸法、プロポーションなどの美学的視点、住宅をつくる材料・構法・設備などの最近の状況、省エネルギーや長寿命などのサステナブル・デザインの考え方、住宅を供給する工務店やハウスメーカーの体制、住宅と風土や地域性の関係、住宅と街並の景観の関係など、さまざまな問題を解きほぐし、相互の関係を探りながら、現代における住宅の問題を総合的に把握することによってこれからの住宅に関する「住宅リテラシー」の向上をめざします。

## 思春期・青年期の心理臨床('13)

放送大学准教授 佐藤 仁美 西九州大学大学院教授 西村 喜文  
(心理と教育) (放送大学客員教授)



あなたにとって思春期・青年期とは、どんな時代だったでしょうか？

私は、1983年のヒットソングである故・村下孝蔵氏の『初恋』を思い浮かべます。「風に舞った花びらが水面を乱すように…」 「浅い夢だから胸を離れない…」まさに、この時期の(乙女)心を表しているように思います。そんな時期を、私たちはどう捉え、また、どう乗り越えていったらいいのでしょうか？

本科目は、発達の視点を軸に、教育・福祉・司法・医

療など多角度から思春期・青年期を眺め、この時期に起こりやすい多種多様な問題とそれに対応する各種療法の代表的な技法や、普段からの付き合い方を紹介しています。印刷教材と放送教材が折り重なってひとつの模様を成しておりますので、その織模様もお楽しみください。私たち講師陣は、ひとつのきっかけを投げかけているにすぎません。是非、受講生の皆様が、様々な視点から思春期・青年期というものを感じ、味わい、受けとめ、考え、深めてみてください。

## 日本政治外交史('13)

放送大学教授 (社会と産業) **御厨 貴** 東京大学先端研教授 (放送大学客員教授) **牧原 出**



御厨 貴 教授



牧原 出 教授

近代の「日本政治外交史」の印刷教材、放送教材を作成する作業に、今回くらい苦労したことはない。政治変動も自然災害もまだこの先が見えない。わずかにようやくこの国に本当の「戦後の終わり」が訪れんとしている兆候だけが感じられる。

そういった変動を前に、わが国民はたたずんでいる。これからの日本のあり方をきちんと押さえるために、この国の政治外交の来し方行く末を明確に判断できる素材に触れることが、まず必要だ。

この講義はそっと、不安で居ても立っても居られぬ国民にささやく。「落ち着いてこの国の近代の歴史をひもといてみよう。この国の政治外交をリードしたプロの生き方に触れてみよう。そしてこの国が変動と安定の周期をくり返す中であって、変わるものと変わらざるものが何であるのかを探りあててみよう。」

歴史的な思考こそが、必ずや一人一人の国民の将来に対する考えを強靱なものにすると信じて疑わない。

## コンピュータと人間の接点('13)

放送大学教授 (情報) **黒須 正明** 東京大学教授 (放送大学客員教授) **暦本 純一**



黒須 正明 教授



暦本 純一 教授

computerを日本語にすると計算機となりますが、コンピュータは今では計算をするだけの機械ではありません。私たちの仕事や生活や趣味のなかにどんどん入り込んできて、そのあり方を変化させています。いまでは、コンピュータに関係せずに生活することは不可能に近い、ともいえるでしょう。

そういう状況であれば、コンピュータやコンピュータによって拓かれた新しい世界は、私たちにとって便利

で親しみやすく、使いやすいものであるべきです。そのためには、人間とコンピュータの接点であるヒューマンインタフェースについて、その特質を理解し、その最適化を図ってゆく必要があります。

この講義では、ヒューマンインタフェースという近年特に発展の著しい研究領域について、人間と技術の両面から考えていこうとするものです。

## 現代化学('13)

放送大学教授 (自然と環境) **濱田 嘉昭** 神奈川大学教授 (放送大学客員教授) **菅原 正**



濱田 嘉昭 教授



菅原 正 教授

2000年の白川秀樹博士から現在まで6名の日本人研究者がノーベル化学賞を受賞しており、2012年度の山中伸弥博士の場合はノーベル生理・医学賞でしたが、遺伝子操作は化学の知識と技術に基づいています。そして、毎年のように化学賞の候補となる日本人研究者の名前が目白押しであり、化学は現代の学術の中で、日本の得意技にもなっています。

化学ほど、物質を利用する日常生活、環境問題、健康や医療、そして私たちの活動の源泉ともなるエネルギーに関係している学問はないと考えます。前記の項目に関する化学の知識や技術、そして物質名の例を

私が示す必要はないでしょう。

化学は、ミクロの原子・分子の世界とマクロの物質・材料を結ぶ知識であり、せいぜい100程度(通常は10のオーダー)の元素の示す普遍的な法則を駆使して、数千万に及ぶ多様性の世界を結ぶ技術です。知的冒険を楽しむこともでき、また製品による実利をもたらす分野でもあります。化学が扱う広い分野から、「エネルギー」、「機能性物質」、そして「生命と健康」に係る現代の化学の息吹の一端をお楽しみください。

## 障害児・障害者心理学特論('13)

大分大学教授  
(放送大学客員教授) 田中 新正

大分大学教授  
(放送大学客員教授) 古賀 精治



田中  
新正  
教授



古賀  
精治  
教授

2005年の「障害者自立支援法」「発達障害者支援法」の施行、そして2007年に「特殊教育」から「特別支援教育」へと学校教育法が改定されるなど、障害のある人たちを取り巻く環境は、21世紀を迎えてから大きく変動してきています。

それに伴い教育や医療・福祉領域においても、学習障害児(LD)や注意欠陥／多動性障害(ADHD)・高機能自閉症などの発達障害を始め、さまざまな障害のある人々と関わる機会が多くなってきています。その

ため、障害児・障害者本人と家族への支援に関する知識と理解は不可欠となっています。そこで講義では、障害の理解と障害のある人々への心理的援助、それと障害の受容と家族支援について紹介しました。

本講座が、これから臨床心理士の資格を取得しようとしている人や、教育・医療・福祉・産業領域の現場で活動している人にとって、多少とも役に立てれば幸いです。

## 美学・芸術学研究('13)

放送大学教授  
(人文学プログラム) 青山 昌文



青山  
昌文  
教授

この講義は、学部の「芸術史と芸術理論('10)」が、歴史的に原始美術から現代芸術までを論じているのに対して、体系的に、美術・音楽・演劇・文学・映画・建築等を論じ、更に、自然美、美の本質、芸術の本質などを考察しています。日本を代表する具象画家の野田弘志氏や、映画の創始者のひ孫さんのリュミエール氏へのインタビューもあります。また、パリの美術館や南フランスのルトロネ教会などでのロケもあります。そして、後半では、近代にいなながらも、近代を超える素晴らしい哲学・

美学を打ち立てたデイドロの美学・美術批評・演劇美学を論じています。

美や芸術は、かけがえもなく、素晴らしいものです。現代日本は、3・11の大地震・大津波・史上最悪レベルの原発事故を、経験してしまいましたが、美や芸術は、浮世離れした現実逃避的なものではなく、しっかりと現実を踏まえている、根源的で奥の深いものであり、そうであるがゆえに、魅力を放っているものなのです。この講義で、その奥深い魅力の一端を味わってください。

## 研究のためのICT活用('13)

放送大学准教授  
(情報学プログラム) 高橋 秀明

放送大学准教授  
(情報学プログラム) 柳沼 良知



高橋  
秀明  
准教授



柳沼  
良知  
准教授

この科目は、研究という活動において情報通信技術をどのように活用することができるかについて、主に、情報系の研究を対象にして検討しています。大学院の科目ですから、修士論文を作成し口頭試問で研究発表することを念頭においていますが、学部での卒業研究においても役立つ内容になっています。

情報系の研究は、情報システムの開発や、その開発された情報システムを利用するユーザーに対する調査などから成っています。また、現代においては、自然科学に限らず、人文科学や社会科学のあらゆる領

域において、PCやインターネットを活用して研究が進められています。このような意味で、本科目は、情報系の研究に限らず、あらゆる領域の研究において役に立つ内容になっていると自負しています。

最後に、修士学生の皆さんには、ICTを存分に活用し、研究活動のスケジュールを管理しながら研究を進められて、修士論文を無事に提出されますように念じております。

## 就任のごあいさつ

# 放送大学の 明るい未来のために

副学長 小寺山 亘

平成22年から福岡学習センターの所長として3年間勤務してまいりましたが、このたび、二宮前副学長の後を受けて4月1日より副学長に就任いたしました。吉田・來生両前任副学長のご指導を仰ぎながら、全力を挙げて岡部学長を補佐していきたいと考えております。

前任校では研究所教員として海洋工学の研究に取り組んできました。開発した海洋観測機器の実証実験のため、フィールドに出かけることが多く、オホーツク海、日本海、東シナ海、太平洋と日本沿岸各地を同僚研究者・大学院生とともに観測船で回りました。私の副学長としての主な責務は学習センター支援ですので、

今回は全国の学習センターを機会あるごとに訪れたいと思います。各地の学習センターの学生諸氏、教職員の皆様のご意見・ご要望をお聞きして、学習環境、職場環境の改善に努めたいと考えております。

また、前任校最後の数年は産学連携の仕事にも携わり、国内外の企業などとの連携促進を行いました。その時の経験では良い関係はお互いがウソ・偽りなく誠実に対応し、かつ相互の利益を図らなければ築けないということです。この経験を生かして、今後は学内外の方々のご協力を仰ぎながら、放送大学の明るい未来のために働きたいと思っています。



## ふたたび放送大学で

生活と福祉 教授 山田 知子  
生活健康科学プログラム

専門は社会福祉学です。実は私は、1990年から1999年まで生活と福祉コースの助教授として勤務しておりました。その後、社会福祉系の大学に移り、専門職養成に携わっておりましたが、縁あって戻って参りました。面接授業や「専攻特論」でお付き合いしたみなさん、お元気でしょうか。放送大学は、当事者とその家族、そして専門職など、社会福祉に関係する人々がたくさん学んでいるので楽しみです。リアルな生活をベースにしたのびやかな社会福祉学、社会人の皆さんの豊かな生活経験を生かした放送大学ならではの学の追究をめざしたいと思います。趣味はドイツ歌曲を歌うことです。よろしく願いいたします。



## 楽しみにしています

人間と文化 教授 滝浦 真人  
人文学プログラム

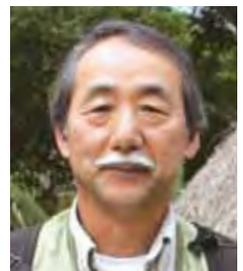
4月から、この日本一ユニークな大学のメンバーに加えていただきました。わたしは言語学、とくに日本語学とコミュニケーション論を研究しています。東アジアの端でいろいろな要素が混じり合ってきた日本語には、面白い特徴がたくさんあります。人間関係のとらえ方にもはっきりした傾向があります。日々“あたりまえ”と思って気づかないそれらの特徴や傾向を、学問的に考えていきます。放送授業でお目にかかるのは少し先になるようですが、それまでに面接授業などで日本全国多くの土地を訪ね、受講生の皆さんにお会いできることを楽しみにしています。一緒に学んでいきましょう。



## 周縁から世界を学ぶ

人間と文化 教授 稲村 哲也  
人文学プログラム

皆様はじめまして。TVで大学院科目「人類学研究(10)」の3回分を担当しています。静岡県出身で学生時代は東京、就職後は名古屋在住でした。専門は文化人類学で、博物館科目の制作にも従事します。先住民社会、牧畜文化の研究のため、標高4千mを超えるアンデス・ヒマラヤ高地、モンゴルなどで現地調査を重ねてきました。激動の中にある極限地域・周縁地域から「世界」が見えます。愛知県犬山市の野原民族博物館リトルワールドに6年半勤務し開設等に携わった後、愛知県立大学に25年半勤務しました。初心に戻って、これまでの経験を教育研究と仕事に活かしたいと思います。よろしく願いします。



## 就任のごあいさつ

### 学びの花を咲かせましょう

自然と環境 教授 石崎 克也  
自然環境科学プログラム



千葉県南房総市の出身です。南房総は房総丘陵が海に迫る豊かな自然と、一年中を通して花の絶えない温暖な気候で有名です。その影響か、バルコニーで植物に水やりをすることが日課になっております。大学院博士課程の途中で国立東京工業高等専門学校に採用され、その後、日本工業大学を経て、今年4月に放送大学に着任いたしました。ここにいたるまでは、ものづくりの現場に直結するまじめな学生達に工学の基礎となる数学を伝えて参りました。これからは、全国各地の学生の皆様と数学の勉強を通して、学びの花を咲かすことを楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 個々の性質を飛び越えて

自然と環境 准教授 安池 智一  
自然環境科学プログラム



本年度から自然と環境コースの一員となりました。慶應義塾大学、東京大学、京都大学、分子科学研究所を経て着任いたしました。専門は理論分子科学です。幅広く原子分子の関係する動的現象に興味を持っています。一つの例は、光に応答してナノ粒子の電子が示す集団運動です。素粒子でその素性の完璧に分かっている電子が、或る時はバラバラに、また或る時には集団性を持って運動する、この点を面白がって研究しています。放送大学では、皆さんと相互作用しながら、互いに自分の思いもよらなかった潜在的性質を引き出しあえたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 退任のごあいさつ

### 退任にあたって

あきら  
前副学長 二宮 皓



2011年4月1日。広島学習センター長を離任し、本部の副学長ということで上京しました。石弘光前学長の任命でした。私が初めて就職したのが文部省で、その時の国家公務員宿舎が習志野でしたので、千葉に住むことになり、ワイフも私も懐かしい気持ちでしたし、不思議な縁を感じました。ところが石学長が1か月で退任(再任を辞退)。正直言って驚きましたね。しかし岡部学長が誕生し、新学長のもとで改めて副学長をということで今日に至った次第です。担当は学習センター支援や学生支援です。

副学長就任の挨拶で「学習センターにおけるキャンパス(カレッジ)ライフの充実を目指して」と抱負を語っていますが、いかほどまで貢献できたかとなると、忸怩たるものがあります。学習センターを一層学生の方々の身近な存在に、「居場所」になれば、との思いで、学長の指導のもと支援をしてきました。特別支援の充実にも尽力してきました。また地域に貢献できる“地域リーダー”、地域を元気にしてくれる人材を育成する学習センターであれば、という夢を追いかけました。

放送大学でも卒業研究を指導する機会に恵まれ、教え子(?)が二人も誕生しました。放送授業は、学部科目『世界の教育』『比較教育制度論』と長年にわたって授業を

担当してきましたが、大学院科目『市民性形成論』が閉講となり、それも終わりを迎えました。面接授業「世界の学校」(比較教育文化論)を開講し、九州、中国四国、関東、東北の学習センターでたくさんの学生の方々に楽しんでいただけました。高い授業評価を頂戴し、気恥ずかしい思いも残っています。同窓会の記念式典での基調講演も思い出に残っています。ちなみに演題は『思い出の中の教師群像』でした。

放送大学で学ぶ学生の皆さん、同窓会の方々。大好きですね。放送大学の自慢や素晴らしさは、学生の皆さんにあります。輝いているのは皆さんでした。それは間違いありません。成功(卒業)する人は必ずしも多くはないかもしれませんが、学びのプロセスにあることが大切です。是非とも、今の時代が求める人“生涯にわたって学び続ける人”であってください。私もそうした学生になります(いつ卒業できるかは未定)。

楽しい、思い出に残る時間と空間を、そして機会をありがとうございました。感謝。

追伸:退任後は広島に戻ります。世界遺産(原爆ドームと厳島神社)もありますのでお出かけください。

## 教育支援センターより

教育支援センター

教育支援センターは、放送大学における情報通信技術 (ICT) を利用した教育の支援などの、情報化の推進を行うことを目的としています。具体的には、本学の教材等の開発および教育システムの情報化による教育・学習の支援、ファカルティ・ディベロップメント (教員の教育技能向上) 等の支援などを行います。



## 教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生 募集

広報課・学生課

2013年度第2学期の学生募集を以下のとおり行います。

出願期間	2013年6月15日(土)～2013年8月31日(土)
合否通知等	2013年6月下旬～2013年9月中旬
学費の納入	2013年6月中旬～2013年9月末
入学許可通知	2013年7月上旬～2013年10月上旬
印刷教材等の配送	2013年8月下旬～2013年9月末
授業開始	2013年10月1日(火)

- ・放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介ください、入学をお薦めいただくようお願い申し上げます。
- ・また、2013年9月末をもって学籍が切れる学生の方で、2013年度第2学期以降も引き続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学料が割引になります。
- ・インターネット出願は2013年6月1日(土)～2013年8月31日(土)までです。
- ・出願締切日は**2013年8月31日(土)<必着>**です。

## 大学院修士全科生 募集

教務課

放送大学大学院では、2014年度修士全科生の学生募集を以下のとおり行います。

出願期間	2013年8月16日(金)～2013年8月30日(金) 18:00(必着)
第一次選考(筆記試験)	2013年10月6日(日)
第一次選考合否通知	2013年11月1日(金) 発送
第二次選考(面接試問)	2013年11月23日(土)または2013年11月24日(日)
合否通知等	2013年12月13日(金) 発送
学費の納入	2014年3月上旬～2014年3月中旬
入学許可書・印刷教材等の配送	2014年3月中旬～2014年3月下旬
2014年度授業開始	2014年4月1日(火)

- ・修士全科生は、修士課程を修了して、学位「修士(学術)」の取得を目指す学生です。
- ・大学卒業(卒業見込みを含む)の方またはこれと同等以上の学力があると認められた方※が出願できます。※本学が行う出願資格事前審査で認められることが必要です。申請期間は、2013年7月12日(金)～7月25日(木)です。詳細は募集要項をご覧ください。
- ・募集人員は500名で、入学者選考に合格した方が、入学できます。
- ・入学希望者がガイダンスを開催します。詳細はHPをご参照ください。  
<http://www.ouj.ac.jp/hp/gakuin/guidance.html>

## Open Forum (大学院教育研究成果報告) 第9号について

教務課

このたびOpen Forum第9号を発行しました。本書は大学院修士課程2011年度修了生の修士論文を基にした論文集です。各学習センターにて閲覧できますので、修士全科生の研究成果に興味のある方はご覧ください。また、各学習センター・本部(郵送のみ)において、販売も行っています。通常価格900円(本学学生価格720円)となります。お問い合わせは本部、各学習センターまたは本学ホームページをご参照ください。



## 編集後記

放送大学「開学」30周年、CS放送による「全国化」15周年の記念すべき年。2012年度学位授与式の学長式辞にあるように、「生涯学習を担う通信制大学」は、全都道府県に設置された学習センターを拠点に、国民の学習の機会と教育の機会を保障する高等教育機関としての役割を担ってきました。卒業・修了祝賀パーティーでの、「友人に誘われて一緒に入学し2人で卒業を目指して～」、「卒業しようと思ったのが遅く、また年齢のせいか覚えても忘れてしまうことが～」、「じわりと嬉しさが込み上げてくる感じです。たくさん苦労なさった学友の話聞いて～」そして最高齢男性の「この年齢になるとなかなかしんどかったです～」などの言葉(本誌掲載)は、後輩たちの励みになるに違いありません。(岡崎友典)

### 前号(109号)の誤字のお詫びと訂正

109号の被災地レポートに誤りがありました。10ページ右列9行目の「石巻東中学校」は、「釜石東中学校」が正しく、右下写真の説明部分「石巻市鶴住居」は「釜石市鶴住居」が正しいです。お詫びして訂正いたします。

### 放送大学通信 オン・エア 編集委員(2013年度)

委員長	教授	島内 裕子
副委員長	教授	高木 保興
委員	副学長	吉田 光男
	教授	宮本 みち子
	教授	青山 昌文
	教授	米谷 民明
	准教授	岡崎 友典
	准教授	森本 容介
編集事務担当		総務部広報課



放送大学

<http://www.ouj.ac.jp/> ISSN 1343-3369

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス [editor@ouj.ac.jp](mailto:editor@ouj.ac.jp)